

2021年AIBA男子ボクシング世界選手権大会

CHAMPIONSHIPS

BELGRADE, SERBIA 2021

日本人史上初

優勝

つほいともや
坪井智也 (静岡県出身)
2等陸曹

令和3年10月25日から11月5日までの間、セルビア共和国・ベオグラードにおいて2021年AIBA男子ボクシング世界選手権大会が行われた。本大会は全13階級で実施され、自衛隊体育学校からは秋山佑汰2等陸曹、坪井智也2等陸曹、森脇唯人3等陸曹が出場し、坪井2曹が日本人初の世界選手権優勝を果たした。



同時優勝写真を撮った坪井(左)と岡澤セオン選手(右)

バンタム(54kg)級に出場した坪井2曹は、初戦でイタリアの元五輪代表であるマヌエル・カップイ選手にWP5-0で勝利し、好発進を切った。2回戦の相手はリオ五輪のフライ(52kg)級金メダリストで前回大会(2019年AIBA男子世界選手権)王者のシャホビディン・ゾイロフ選手(ウズベキスタン)。1ラウンド目は2-3でゾイロフ選手が優勢、続く2ラウンド目も1-4と苦しい展開が続くも、坪井2曹は冷静に自身のボクシングを貫いた。3ラウンド目では5-0と攻勢が認められ、お互いに一歩も譲らぬ攻防戦をWP3-2で坪井2曹が競り勝ち、準々決勝に駒を進めた。勝てばメダル確定となる準々決勝、日本人史上4人目となる表彰台に向けて迎えた相手は、ジャバリ・ブリーディー選手(バルバドス)。前半はバッティングが多発するも冷静に対応し、後半もポイントを重ねWP5-0で日本勢10年ぶりとなる表彰台入りを確定させた。

準決勝は東京五輪フライ(52kg)級代表で前回大会(2019年AIBA男子世界選手権)銅メダリストのビジャル・ベナマ選手(フランス)との一戦。坪井2曹は力強さとスピードを武器に攻め込み、WP4-1で日本人史上2人目となる本大会での決勝進出を決めた。決勝の相手は、ボクシングの強豪国カザフスタンのマフムド・アビルカン選手。1ラウンド目は2-3と劣勢からのスタートとなったが、坪井2曹は落ち着き払ったパフォーマンスで、2ラウンド目からは試合の流れを支配した。最後まで冷静さを失うことなく、正確に攻撃を決めWP5-0で日本人史上初の優勝を飾った。

世界ランキングの上位に名を馳せる強豪たちを打ち破り、素晴らしい結果を打ち出した坪井2曹は「まだ実感は湧かないが、たくさんの方が連日応援してくださったおかげもあって良い成績を残せたと思う。」と振り返った。また「まだ反省点もたくさんあるので、帰国後にすぐに練習がしたい。」と、世界王者になった直後も現状に甘んじない向上心をみせた。

さらにウェルター(67kg)級で出場した東京五輪代表の岡澤セオン選手(INSPA)も優勝し、日本勢初の同時2階級制覇という快挙も成し遂げた。

ボクシング判定要領 (令和3年11月現在)

アマチュアボクシングの判定は5人のジャッジによって行われる。

ジャッジは1ラウンドごとに、優勢だと判断した選手に10点、劣勢だと判断した選手にはその程度によって9点以下を付ける。

3ラウンド終了時点で5人それぞれの合計点を算出し、点数の高いジャッジが多い方の勝利となる。

例:2回戦(ゾイロフ選手戦)

坪井2曹					WP 3-2	ゾイロフ選手				
A	B	C	D	E	ジャッジ	A	B	C	D	E
9	9	9	10	10	1ラウンド	10	10	10	9	9
10	9	9	9	9	2ラウンド	9	10	10	10	10
10	10	10	10	10	3ラウンド	9	9	9	9	9
29	28	28	29	29	合計	28	29	29	28	28

